

夏の散歩道/藤原歩

w/m : 藤原歩

もう歌いたい詩なんか無かったはずなのに「乗れ」と言われた列車を何本眺めたのだろう
暑さにやられた頭で手を叩く 言葉と心が繋がらないのを笑いながら
昨日の明け方 街中の子供達がオモチャの気球船に乗って姿を消した
僕も一緒に連れてって欲しかったけれど大人になった僕にはオモチャ箱が無かった

朝顔の花が揺れてる
君の好きな花さ
朝顔の花が揺れてる
また此処へ来てしまったみたいだ

何にも知らないお母さんはキッチンに立ってスクランブルエッグを焼いてニュースを聴いてる
この国の未来がどうなるかなんて知らない スパイスの効いた占いにすがり付いてる
誰もいない抜け殻の学校はまるで 昔 積み木で作ったお城に似ている
今日のチャイムは誰が為に鳴るのだろう 笛吹男よ僕の為に警笛を鳴らせ

行けるものなら其処へ行きたかったし なれるものならそれになりたかったし
ブラウン管の英雄を横目で見ながら 扉の鍵を自分で隠していたんだ
もう歌いたい詩なんか無かったはずなのに「乗れ」と言われた列車を何本眺めたのだろう
歌は今日も続かない オモチャ箱の中 居場所を無くした嘘つきピエロを拾っておくれ